

平成 27 年度

茅野市議会福祉教育委員会研修視察報告書

(福祉教育委員会 特定事件継続調査報告書)

➤ 研修期日

平成 27 年 10 月 21 日(水)、22 日(木)、23 日(金)

➤ 調査対象

 佐賀県武雄市

- ICT 利活用教育の推進・「官民一体型」小学校の創設について
- 図書館への指定管理者導入について

 長崎県諫早市

- こどもの城事業について

➤ 参加委員

委員長	伊藤 玲子
副委員長	松山 孝志
委員	伊藤 正陽
委員	長田 近夫
委員	北沢千登勢
委員	小池 賢保

➤ 市随行者

生涯学習部長	木川 亮一
議会事務局主査	小田島太一

佐賀県武雄市

✚ 調査項目①

ICT 利活用教育の推進・「官民一体型」小学校の創設について

✚ 調査対応者

こども教育部スマイル学習課 小柳真一 氏
議事係長 江上新治 氏

✚ 調査期日

平成 27 年 10 月 21 日 午後 3 時～午後 4 時 40 分

✚ 武雄市の概要

- ・ 人口：49,987 人
- ・ 世帯数：17,769 世帯
- ・ 面積：195.40 平方キロメートル
- ・ 市長：小松 政（こまつ ただし）
※第 4 代（現）武雄市長。初代～第 3 代は樋渡啓祐（ひわたし けいすけ）氏。

武雄市は、佐賀県の西部、佐賀市の西約 28km、佐世保市の東約 30km の場所に位置する市。地形は低山と盆地と川沿いの平地が入り組む地勢である。市城南東部の武雄盆地の西の端と、市城西側の盆地に人口が集中している。他の地域は山地である。

町の中心には開湯以来 1300 年経つ武雄温泉があり、この温泉には日本銀行や東京駅の設計を行った辰野金吾設計の楼門があり、国の重要文化財に指定されている。

2006 年 3 月 1 日に隣接する北方町・山内町と合併し、新市制による武雄市となった。

武雄市は 9 つの「町」に分けられる（武雄町、朝日町、橘町、若木町、武内町、東川登町、西川登町、北方町、山内町）。それぞれは合併前の町村（旧武雄市の 7 町は 1954 年の、山内町・北方町の 2 町は 2006 年の合併）に対応する。

※ 武雄市の公立小中学校と推進している教育の事業

市内には 11 の小学校（+ 3 分校）と 5 の中学校がある。

武雄市の教育で目玉にしている中身は大別して二つ。一つは民間企業と大学と連携しての指導法、教材の開発をし、学校で実践するというもの（スマイル学習とプログラミング教育＝ICT 利活用教育の推進）。二つは花丸学習会という学習塾と連携し、この塾の指導法を学校に導入するというもの（＝「官民一体型」小学校の創設）

🚩 調査目的

今回の視察の目的はこの武雄市教育の目玉であるスマイル学習とプログラミング教育（＝ICT利活用教育の推進）、それと花丸学習会と連携し、この塾の指導法を学校に導入する指導（＝「官民一体型」小学校の創設）について

- ① それらの内容の把握
 - ② 有効性と課題
- を明らかにすることである。

🚩 調査内容とその結果

（1）スマイル学習（school movies innovate live education classroom）概要

全ての小中学校の全児童・生徒にタブレット端末を持たせ、電子黒板との併用で授業を行うというもの。授業の導入に用いる動画を家庭で予習させ、そこでの疑問などから授業を展開させるという。この動画視聴予習によって、「教室での思考時間、演習時間を長くとることができ、子どもに思考力がつき、演習を沢山やる事が出来ることで身につけさせることが可能」「予習の動画は5から7分程度で、子どもに興味や関心を持たせた授業展開となる」という説明だった。

子どもの解答がデバイス上に記され、先生の親機に全て表示される。電子黒板にも全員の解答、個人の解答が選択して表示でき、どの子がどこで躓いているかが瞬時に分かる。また、子どもの解答を電子黒板に拡大して映すことができ、板書時間がいらぬなど優れたツール（道具）。

算数・数学では演習問題がいっぱい用意されていて、早く進んだ子どもはチャレンジがいっぱいできる。答え合わせも自分でできるようなプログラムも組める。先生にとってはありがたいツール。

武雄市では、算数・数学、理科に続いて国語でもこの仕組みが導入されている。全教材の2割から3割の単元で実施されている。

算数、国語の学力テスト結果を同じ子ども（5年生→6年生）を学校ごとに県平均と比較し、その結果を分析した考察が第一次検証報告書（東洋大学現代社会総合研究所ICT教育研究プロジェクト2015-6）に記されている。

それによると、算数では結果は向上しているが、国語では低下している。「短期的に効果が現れやすい教科や領域とそうでないものがあることが知られているが、（算数において向上したことから）スマイル学習が成績向上に寄与した可能性がある。」としている。

2014年6月から2015年1月にかけて教員を対象に実施した「スマイル学習授業後の評価アンケート」によると、予習用の動画コンテンツが「使いやすかった」「どちらかといえば使いやすかった」が算数82.1%、理科83.5%といずれも8割以上あり、また全ての小学校の保護者を対象としたアンケート（2015年7月実施）でも、スマイル学習の効果について「効果があると思う／やや効果があると思う」が40.9%「ほとんど効果はないと思う／あまり効果はないと思う」が15.1%で、効果について肯定的な考えを持つ保護者の割合が多かった。

（2）プログラミング学習

授業でデバイスを利用して「動画作成プログラミング」などの授業を一部の小学校1年生で実施している。児童の98%が楽しかったと評価している。

(3) 花丸学習会との連携の概要

花丸学習会の手法を用いて学校の授業に導入。学校長が導入を主導し実現した。塾から講師を呼び、講師の指導のもと、学習活動を展開している。

①モジュール学習

- ・四文字熟語：四文字熟語を音で覚える。大きな声を出して読む。
- ・キューブキューブ：木製のブロックを用い空間認識力を磨く。
- ・サボテン：計算問題の反復学習
- ・たんぽぽ：日本語を音としてかみしめさせる
- ・パターンメーカー：フラッシュカード4枚を一瞬見て、形を作る
- ・あさがお：詩などを書き写すことで長時間の学習を行う力を養う。

②青空学習

異年齢集団での屋外活動を通してコミュニケーション能力を高め、思いやりの心を養いリーダーシップを育成

(4) 視察の中で常任委員会が特に明らかにしたいと考えた問題とその回答

①タブレット端末を用いることでどんな子どもに育てたいと考えているか。

回答＝教育基本法、学校教育法等で目指している「人づくり」「飯が食える大人になれるようにすること」を目指す。

②教員の負担はどうか。

回答＝教材開発など時間がかかり確かに忙しい。しかし先生方は「やりがい」も感じている、とのこと。普通の学校で行っている報告事項などできるだけ減らすよう努めている。

③市の教育予算は増えているのではないか。動画制作費用の捻出は？

回答＝動画は企業が無償で作成している。

④民間学習塾の手法を用いる教育の導入、民間と連携しなければ不可能か。

回答＝民間から学ぶことは大きいですが、民間との連携でなくても不可能ということではない。

🚩 【考察】（茅野市での展開の可能性と問題）

<武雄市の教育① ICT利活用教育の推進>

予習であらかじめ作成した動画を学習し、そこでの問題把握ができる。また教師が子ども一人一人の実態を把握できる。電子黒板を用いる事で板書時間が少なく済み、また追求の時間が十分にとれ、ドリルも十分できる。授業の効率もよくなる。教師が個々の理解度を把握できるので、システムとしては有効である。

しかし、教材作りには多大な労力がかかり、これを現在の学校体制で行うことは不可能。武雄市では、一つの学校で作成した物を企業が「動画」として作成。11校全ての小学校で使用する方法を採用している。そのことによって時間的な労力は減る。一つの解決方法であるが、一方、自分の思いで授業を作れない面も生じる。

現在動画作成料金は無料だそうだが、全国の学校用に無料で提供してもらうことは無理で、この

動画を「教材として購入」して授業に用いることになるであろう。その場合、費用負担が多大になることが考えられる。国や県の財政援助がどうしても必要になる。

タブレット端末購入費用などにも多大な費用がかかり、思い切った財政出動が必要。また、大学や企業の協力が求められる。

プログラミング教育で児童のほとんどが「楽しかった」と答えている。その意味ではこの学習は有効であろう。筋道を考えて考える力、構成等を考える想像力、空間認識や距離感覚などの立体認識力を養うことが検証されれば大いに導入すべきである。

<武雄市の教育② 「官民一体型」小学校の創設>

世界一行きたい学校を目指し、民間の学習塾の手法を取り入れ指導している。花丸学習会の手法は子どもの意欲に結びつき、力もつくと思われる。その手法を学校が取り込めれば、現在の学校でも指導は可能であろう。「学校がそう動くか」にかかっているともしえそうだ。

この学習によって、移住希望者もいることから人口減少対策の一つとして参考になる。

🚩 調査項目②

図書館への指定管理者導入について

🚩 調査対応者

教育委員会文化課 白濱貞則 氏

🚩 調査期日

平成 27 年 10 月 21 日 午前 9 時～午前 10 時 45 分

🚩 調査目的

武雄市民が図書館をどのように利活用しているかを実際に目で見ても肌で感じた上で、公共図書館に指定管理者制度を導入するメリット・デメリットを学ぶ。

🚩 調査内容

2013 年（平成 25 年）4 月 1 日の全面改装後、書籍・音楽ソフト・映像ソフトのレンタル・販売店大手チェーンである「TSUTAYA」を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）を指定管理者とした運営が始まる。CCC は図書館の目的外使用の許可を得てスターバックスを含む蔦屋書店を設置。図書館の開館時間を延長、休館日を廃止した。

武雄市図書館は図書館と歴史資料館（併設）の通称で、複合施設。



2000 年にオープンし、2013 年に改修工事を行った武雄市図書館。
左手が歴史資料館、右手が図書館で外観は変わっていない。

①指定管理者制度導入までの経緯

平成 14 年度に入館者数がピーク。以降は減少傾向に転じる。平成 18 年 3 月に 2 町と合併し、新市政による武雄市となり初代市長に樋渡啓祐氏が就任。

「図書館はまちづくりの原点です」

「もっと多くの方に利用していただきたい」

この思いを貫くために、平成 19 年度には金曜日の開館時間を 1 時間増やし、祝日を開館日にした。特別整理期間（休館）を 10 日間から 5 日間に短縮する等図書館改革を進める。

しかし、なかなか成果が上がらなかった。

●指定管理者制度導入前の利用状況の推移

年度別 利用状況	入館者数	利用者数	貸出冊数	開館日 (休館日)	出来事・取組み
12年度	171318	45022	153586	270(95)	
13年度	281530	77048	278091	270(95)	
14年度	294685	81807	306339	270(95)	入館者数ピーク
15年度	286597	84217	325025	270(95)	
16年度	293633	85104	338666	270(95)	
17年度	279765	81308	325996	270(95)	H18.3月に2町と合併
18年度	269838	80409	326368	270(95)	樋渡啓祐氏が市長に就任
19年度	290606	89765	353831	289(77)	開館時間延長、祝日開館、 特別整理期間歇短縮
20年度	289308	93537	378585	291(74)	整理期間をさらに短縮
21年度	280768	93863	381156	291(74)	利用者・貸出冊数ピーク
22年度	265182	83163	359899	292(73)	12/28を開館とする
23年度	255828	82539	340065	295(71)	資料館の燻蒸を年末に

武雄市図書館・歴史資料館をより市民価値の高い施設として運営するために、CCCが運営する「代官山蔦屋書店」のコンセプトとノウハウを導入し、企画や附属事業を展開することで行政サービスの向上を図るために武雄市とCCCが提携。

②管理者よりも利用者目線で

【市民の生活をより豊かにする図書館】

【企画会社CCCと実現する新しい公共施設】

③締結からCCCによる運営開始まで1年弱

平成24年5月4日 武雄市×CCC 基本合意締結

6月定例議会で図書館等設置条例の一部改正

7月臨時議会にてCCCを指定管理者に指定（資格審査のみ）

9月定例議会で改修工事費4億5千万円の補正予算を可決

11月～翌3月改修工事・システム更新等

平成25年4月1日指定管理者CCCによる運営開始

④提携により武雄市図書館にて実現する9つの市民価値

- 1) 20万冊の知に会える場所（開架10万冊から20万冊へ）
- 2) 雑誌・単行本販売の導入（雑誌・単行本を買うことができる図書館）
- 3) 映画・音楽の充実（団塊世代を「プレミアエイジ」と位置づけ、ニーズに合ったサービスを展開）
- 4) 文具販売の導入
- 5) 電子端末（i-pad）を活用した検索サービス
- 6) カフェ・ダイニングの導入（スターバックスの出店。コーヒーを飲みながら自由に全ての本が読める）
- 7) 「代官山蔦谷書店」のノウハウを活用した品揃えやサービスの導入（自動貸出機、分類方法、空間など）
- 8) Tカード、Tポイントの導入（同意、選択制）
- 9) 365日、朝9時～夜9時までの開館時間、年中無休

⑤指定管理者制度導入後の成果・効果

- 一日平均入館者数 平日約2,000人、土日約4～5,000人
- 30代以降の利用者が増えた
- 市内だけでなく市外、県外からの利用者が増えた
- 視察が相次ぎ、宿泊者増（視察は必ず武雄市に宿泊が条件）
- 利用者の95%がTカードを利用しポイントを貯める
貯めたポイントは書店での買物やスタバでも使える
- 調べ学習など小学校司書と連携強化、保育園・学童クラブ・病院等と従前より連携が強くなった
- 公共の既成概念を打ち破る「奇跡の公共施設」（武雄市図書館・金沢市21世紀美術館・北海道旭川動物園）が文化・教育・創造をキーワードに連携し、地方都市の活気を全国に発信

●指定管理者制度導入後の利用状況の推移

年度別 利用状況	入館者数	利用者数	貸出冊数	Tカード 利用者	図書館利用カード 利用者
23年度	255828	82539	340065		
24年度	—	—	—		
25年度	923036	167899	545324		
26年度	800736	153545	480153	92.7%	7.3%

*平成24年度は7ヶ月開館（5ヶ月間は改修工事等で休館）のため比較しない

⑥利用者の声（平成26年7月24日～8月5日まで利用者アンケート実施

（市内114人、市外176人、不明10人 総計300人が回答）

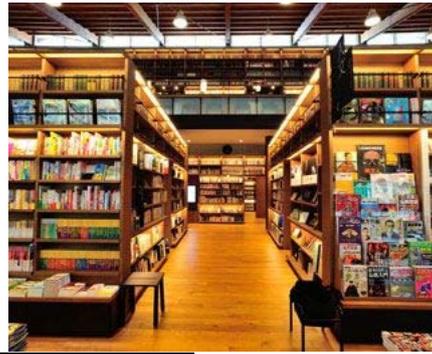
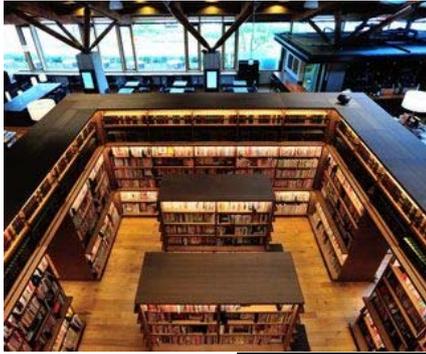
- 施設に「大いに満足」32%（前回32%）「満足」55%（同51%）と回答し、「大いに不満」「不満」は合計でも3%（同7%）
- 満足の内容は、「年中無休」「夜9時までの開館時間」「販売書籍が自由に読める」「居心地がいい」「会話を楽しみながら過ごせる」「夏場の暑い時期は一日快適に過ごせる」
- 課題として、「席が少ない」「駐車場不足」「館内がうるさい」などの要望がある

（参考）一般的に指摘されている武雄市図書館問題について

- ① 図書館の蔵書を充実させるために、公費で購入した10,000冊が新刊ではなく、系列の古書店で購入するというずさんな選書が明らかになる。また、書籍購入費の予算2,000万円から高層書架の安全対策費として1,300万円を流用したことが判明した。必要書類が残されていないことも問題となる。
→現在は武雄市教育委員会が選書のチェック、決裁を行っている。（武雄市回答）
- ② 本来、公募によって指定管理者の指定しなければならないところ、資格審査のみで正式な手続きを踏んだとは言えない。
- ③ 住民側による契約書の情報公開請求を市側が放置。2年経過して開示された契約関連書類に不備が認められたため、住民側は住民監査請求を行うが、武雄市監査委員は「住民監査請求ができる法定期間が過ぎている」ことを理由に、請求を却下した。

※※ 考察 ※※

スピード感を重視するあまり、丁寧に手続きを踏まなかった。指定管理者の指定を受けたCCCが初めての公共図書館運営で未熟だった。武雄市のずさんな手続きや、指定管理者への指導が十分でなかったことも問題。しかしながら、これらの問題は指定管理者制度そのものの本質的な問題とは言えないと考える。



図書館（指定管理業務委託ゾーン）



Tカード



蔦谷書店とスターバックス（民業ゾーン）

✚ 茅野市での展開の可能性

【武雄市図書館の魅力と課題】

《魅力》居心地がいい、毎日開館し開館時間が長いことで利用しやすい、飲食しながら全ての図書が閲覧出来る、本を汚しても故意でない限り弁償しない、ライフスタイル分類のため普段手に取らない本にも興味を持つ、従業員が笑顔で明るくさわやかな印象、館内に活気がある。

《課題》司書が販売も兼ねるため図書館本来の役割がおろそかにならないか、業務の効率化と収益を上げることが目的になり労働条件・雇用条件の悪化に繋がらないか、静かに本を読みたい人にとっては居心地が悪い、ライフスタイル分類のため目的の本が探しづらい。

【茅野市図書館に指定管理者制度導入の可能性】

図書館法や茅野市指定管理者制度運用指針（※1）、過去の議会答弁（※2）を踏まえた上で、少なくとも下記の課題についてクリアする必要がある。

- ① 司書を適正に配置し、図書館法に則った図書館の役割・使命を十分に果たすこと
- ② レファレンスサービス、レフェラルサービスをさらに充実させること
- ③ 公が行なうサービスを維持するとともに、民間のノウハウでさらなる住民サービスの向上を図ること
- ④ 地域の読書ボランティア等との連携・支援の強化
- ⑤ 市内小中学校・高校・大学・図書館分室・市民館図書室との連携や、コンピューターシステムによるネットワーク化を円滑に推進すること
- ⑥ 業務の効率化と経費削減を遂行することによって、従業員の処遇悪化を招かないこと

(※1) 茅野市指定管理者制度運用指針

- ① 管理運営を効果的・効率的に行なうことができるか
 - ② 住民サービスの向上が図られるか
 - ③ 経費の削減等を図ることができるか
- を検討し、十分な導入効果が見込まれる場合に指定管理者制度を導入する。

(※2) 過去の議会答弁から茅野市が図書館に指定管理者制度を導入しないとする理由は

- ① 市民団体「読書の森 読み一む i n ちの」や他の読書ボランティアの活動も活発で、茅野市は公民協働のパートナーシップにより読書活動の推進に努めている
- ② 諏訪地域公共図書館とのコンピューターシステムによる広域のネットワーク化、市内10地区の分室や市民館図書室とのコンピューターシステムによるネットワーク化等連携を図っている
- ③ 本館が分室・市民館図書室に指導・助言をしながら図書サービスの提供に努めている
- ④ 小中学校図書館、高校図書館、諏訪東京理科大学図書館との連携、また他市町村や他の関係機関との連携協力が不可欠

【茅野市図書館で実践できること】

図書館は生涯学習の拠点施設として利用者にとって居心地のいい空間でなくてはならない。さらなるサービス向上によって、市民が気持ちよく利用できるよう努めること、市民ニーズをとらえた選書に力を入れること、活気を感じる図書館であること等が望まれる。

- ① 開館時間の延長
- ② 開館日を増やす工夫
- ③ 新刊を充実させる
- ④ 1階に喫茶コーナーを置き、くつろげるスペースを確保する
- ⑤ 職員の対応改善

長崎県諫早市

調査項目

こどもの城事業について

調査対応者

こどもの城館長 池田尚 館長

調査期日

平成27年10月23日 午前8時50分～午前10時30分

諫早市の概要

- ・ 人口：138,147人
- ・ 世帯数：52,723世帯
- ・ 面積：341.83平方キロメートル
- ・ 市長：宮本 明雄（みやもと あきお）

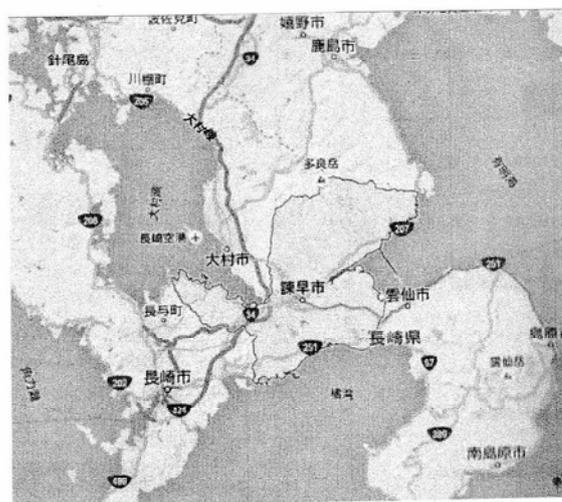
諫早市（いさはやし）は、長崎県中央部にある市。長崎市、佐世保市に次ぎ長崎県第3位、九州では第12位の人口を有する都市である。

それぞれ特長を持つ3つの海に囲まれ、県下最大の穀倉地帯も広がっており、自然の恵みが豊か。長崎県内の交通結節点として整備が進み、多様な産業が集積している。

2005年3月1日に北高来郡飯盛町（いひもりちょう）、森山町（もりやまちょう）、高来町（たかきちょう）、小長井町（こながいちょう）、西彼杵郡多良見町（たらみちょう）と合併し、人口14万人都市となった。これにより、かつて諫早市も属していた北高来郡は、所属する自治体がなくなり消滅した。

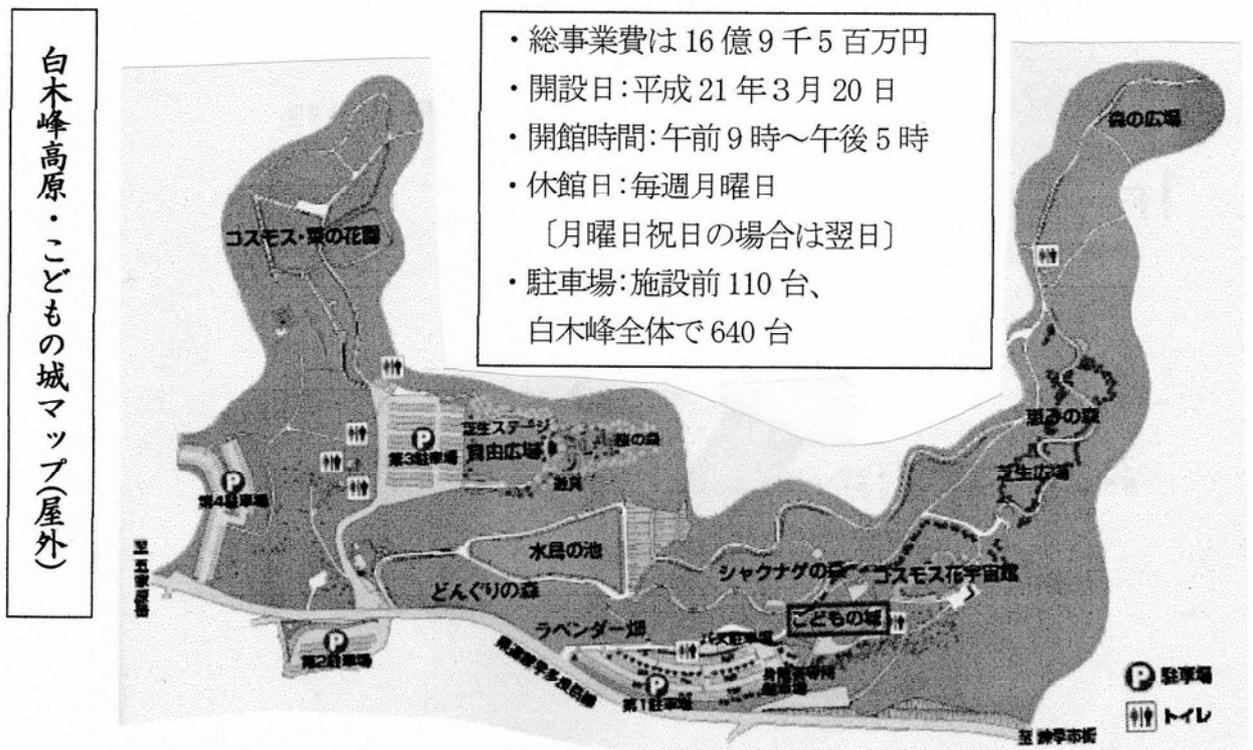
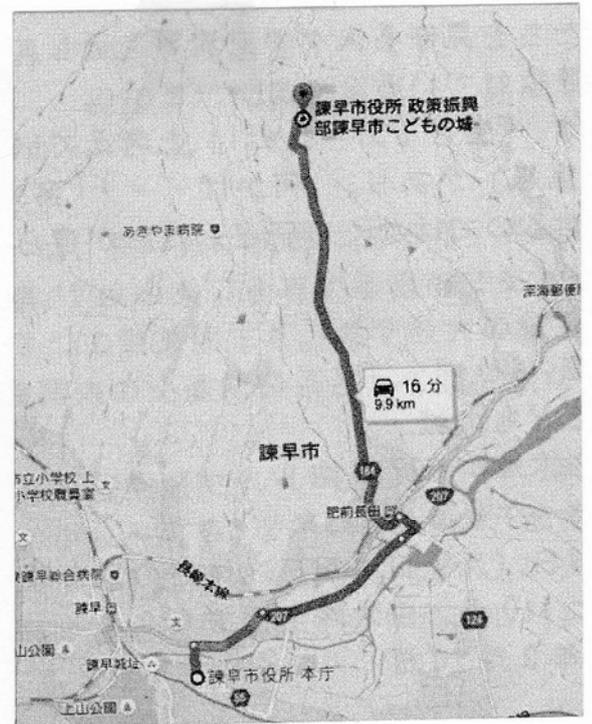
調査目的

諫早市が運営するこどもの城は、子どもたちの生きる力を培うことを目指して設立されました。開設してから7年目に入りましたが、この間毎年10万人を超える来館者があります。大変多くの人たちに利用され続けているここは、どのような場所にあり、施設等はどのようなものか、そしてどのような方法で取組まれているのか、見聞により茅野市での応用を検討する。



↓ 調査内容

- ・諫早市役所より 10 km 程郊外で自動車の音も聞こえない、自然環境を活かした白木峰高原という場所に設置された。[そのため当初、こんな所へという反対の声もあった]
- ・こどもの城は、白木峰高原の約 10ha の敷地内に屋外の遊び場と、延床面積約 2800 m²の屋内の施設を持つ。
- ・こどもの城は、諫早市総合計画の土台づくりに位置づけられている事業。「低年齢児の遊び場」というイメージがあるかもしれないが、子どもと子育て世代の大人だけでなく、思春期の中高生や大学生、退職された方々まで、幅広い世代が利用できる施設となっている。
- ・「恵まれた自然環境の中で、子どもたちの主体的な活動、子ども相互の交流、家族その他子どもたちを見守る人々の交流等を通して子どもたちの生きる力を培うこと」を目指している。



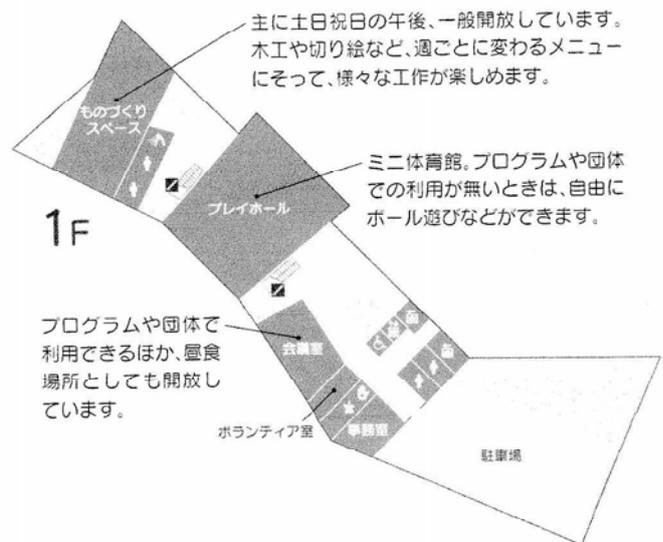
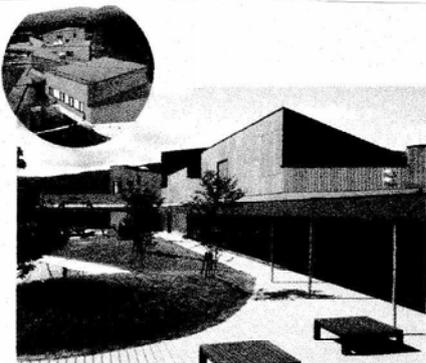
- ・子どもたちを遊ばせるのではなく、子どもたちが自ら考え、行動できる力を培うことを目指している。

- ・こどもの城の最大の遊具は「スタッフ」。抱っこしてくれるお姉さん、プロレスをしてくれるお兄さん、口うるさいおじさん、世話やきのおばさんなど。子どもたちの遊びや学びをお手伝いするため、経験も年齢も様々なスタッフがいて、全力で向かってくる子どもたちに、全力でこたえている
- ・こどもの城では、申し込みなしで利用できる催しを毎日実施している。平日は乳幼児とその保護者を対象に、土曜日、日曜日、祝日は小学生向けの催しもある。また、毎週金曜日は「大人の催しの日」となっている。
- ・申し込みなしで利用する、申し込んで利用するの二通りの利用方法がある。

申し込み不要		申し込み・打合せが必要	
遊具などで遊ぶ	催しに参加する	事前に申し込んで催しに参加する	事前に打ち合わせてオリジナルの活動を創造する

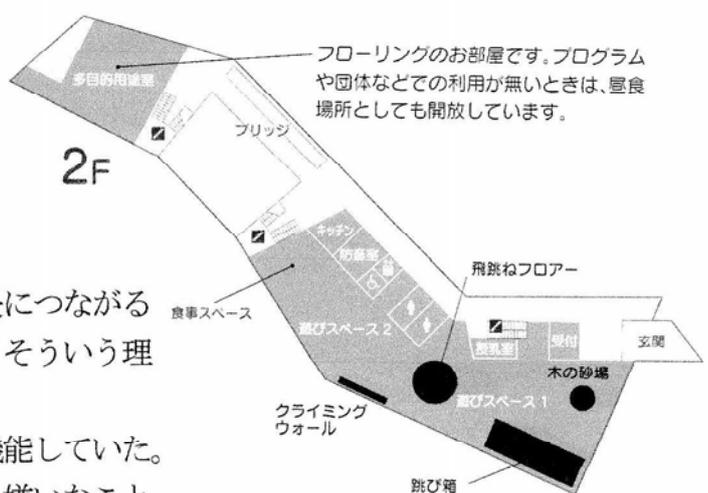
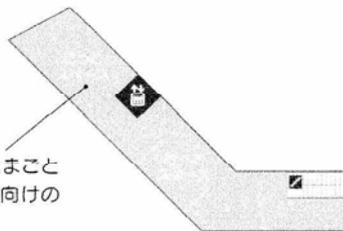
- ・ふらっと来れば遊び場だが、目的を持って来ると、より深い気づきや学びをうることができる。

こどもの城館内マップ



3F

木のおもちゃや絵本、ままことセットなど、0~6歳児向けのスペースです。



- ・子どもの自主性、主体性に任せることが成長につながるという原点にたった指導体制が素晴らしい。そういう理念にたった指導が貫かれている。
- ・発達に障害を持った子どもの居場所として機能していた。
- ・少しぐらいの怪我をするのは当たり前とか、嫌いなこと

もしなさい、嫌いなままでいないこと、自然の中でとことん遊ぶなど、近頃の常識ではなかなか言えなくなったスローガンが掲げられていた。

- ・「泣いたら帰れ」「お前が遊びたいんだろう。だったら泣かずにみんなと楽しく遊べ。それがこのルールだ」と言う指導。
- ・相談ができる、親が育つ“おとなの城”でもある。子連れでなく親だけでも来れる。
- ・説明者は、この事業を興そうとむした市長にスカウトされた初代となる館長。人を見て、先を見て人を巻き込む愛情と迫力に感動した。新規の事業を始めるには人材が先ず必要であると思えた。
- ・『このような事業は民間が興せば収益を考えなければならないが、金のない人には行政が興す、こんな行政があっても良いのでは』の言葉に、チェックする立場として教えられること大であった。
- ・開館から5年、利用方法も多岐にわたってきたとのこと。子どもたちの体験活動から始まり、親の学び、PTAなど地域活動の企画支援、大学の授業・集中講義、教師や児童厚生員の研修、病院や福祉施設の職員研修、企業のセミナー、老人会や婦人会の講演、市職員の研修、子育てや教育を機軸に、そこにかかわる大人の研修が数多く依頼として入っているとのこと。

子どもの城の催しものの例

	静的	動的
屋外	<ul style="list-style-type: none"> ●夜の森探検 ●センス・オブ・ワンダー ●森のようちえん 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクト・アドベンチャー ●アドベンチャー・ワールド
屋内	<ul style="list-style-type: none"> ●伝えるってなあ～に ●英語であそぼう ●各種クッキング 	<ul style="list-style-type: none"> ●10mの壁に挑戦 ●ヤル気の秘訣



利用者の意識とスタッフの思い

	利用者	スタッフ
何で遊ぶ？	設置されている遊具で遊ぶ	遊びは創り出す
誰と遊ぶ？	一人で遊ぶ、家族で遊ぶ	よその人と遊ぶ
どこで遊ぶ？	紹介されていた場所で遊ぶ	子どもが行くところ全てが遊び場になる
どこまで遊ぶ？	今日、遊ぶ	とことん遊び込む

こどもの城の設置目的から、スタッフの考え方で運営し、それを啓発していきます。

こどもの城の愛称

どわ～の
『どきどき
わくわく
のびのび』

✚ 茅野市での展開の可能性

- ◆小学生の居場所で広い遊び場が必要と思えた。
- ◆茅野市でも子どものあるべき姿を取り戻すための取り組みの強化が必要と感じた。
- ◆こどもの城的機能を持つ子ども館・児童クラブ等での男性指導員の関わる意義や役割、生きるに主眼をおいた活動メニューの導入の重要性も感じた。
- ◆事業に関わっているスタッフも、それぞれの仕事を全力でやっていると感じた。
- ◆大勢の人が利用しているのは、何よりもボランティアの活動によって支えられてもいると感じた。官民一体の活動が良く分かった。
- ◆茅野市の 0123 広場、CHUKO らんどチノチノ、地区子ども館は屋内施設なので、自然と親しめる屋外施設が必要と感じた。
- ◆開館から5年で利用方法が多岐にわたって来ている。研修等でその方法の企画も相談できることが理由と思える。また、そのために使用できるスペースも用意されている。この様な企画作りから対応できる所が、茅野にもあっていいのではと思えた。

屋内施設に掲げられていた標語

